

音ぶや休ふ, 記号について

1. 音ぶについて

いろいろな音ぶがありますね。それぞれの名前がわかりますか？

音ぶは, 音が鳴っている長さを表します。

音ぶの長さ

$$\circ = \text{♪} + \text{♪} + \text{♪} + \text{♪} \quad (\text{♪} + \text{♪})$$

$$\text{♪} = \text{♪} + \text{♪} + \text{♪} \quad (\text{♪} + \text{♪})$$

$$\text{♪} = \text{♪} + \text{♪}$$

$$\text{♪} = \text{♪} + \text{♪} \quad (\text{♪} + \text{♪} + \text{♪})$$



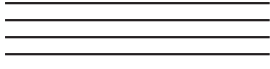
$$\text{♪} = \text{♪} + \text{♪}$$

$$\text{♪} \dots \text{♪} \quad \text{の半分}$$

$$\text{♪} \dots \text{♪} \quad \text{の半分}$$

音ぶの部分の名前

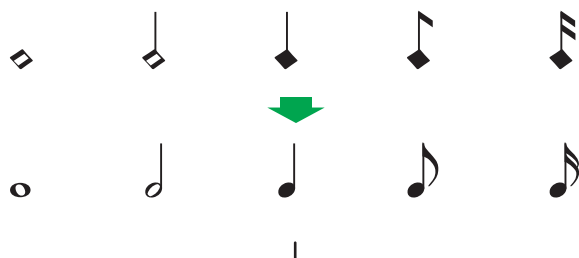


また, 音ぶは  (五線ふ)

などに書かれたときは,
たまの位置で音の高さを表します。

〈音ぶ^{いまむかし}今昔〉

今から550年くらい前に使われていた音ぶと, 今の音ぶをくらべてみよう。



2. 休ふについて

音のない時間を表すために、休ふを用います。

4分休ふ



4分休ふは ♩ (4分音ふ) と同じ長さを休みます。



書くときは、下から上へ書きます。

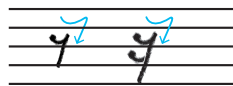
五線ふに書くときは、書き始めを第二線の^{きほん}下から書き始めることを基本とします。

8分休ふと16分休ふ



8分休ふは ♪ (8分音ふ) と同じ長さを休みます。

16分休ふは ♪ (16分音ふ) と同じ長さを休みます。



二つとも、書くときは左上から書きます。

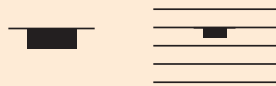
五線ふに書くときは、書き始めを第三線の上から書き始めることを基本とします。



他にもいろいろな休ふがあります。

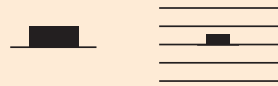
[例]

全休ふ



の四つ分休む
または1小節休む

二分休ふ



の二分休む

3. ト音記号, ヘ音記号と五線, 小節

ト音記号, ヘ音記号と五線

五線は、音の高さを表すために使われる五本の線です。
加線を使って、さらに高い音や低い音を表すこともできます。

ト音記号とヘ音記号を使った楽ふについて見てみましょう。

Diagram illustrating the relationship between the Treble Clef (ト音記号) and the Bass Clef (ヘ音記号) and their corresponding letter names and Japanese syllables.

Top staff (Treble Clef):

- Letter names: C, D, E, F, G, A, B, C
- Japanese syllables: ハ, ニ, ホ, ヘ, ト, イ, ロ, ハ
- English names: (C, D, E, F, G, A, B, C)
- Japanese names: (ハ, ニ, ホ, ヘ, ト, イ, ロ, ハ)

Bottom staff (Bass Clef):

- Letter names: C, D, E, F, G, A, B, C
- Japanese syllables: ハ, ニ, ホ, ヘ, ト, イ, ロ, ハ
- English names: (C, D, E, F, G, A, B, C)
- Japanese names: (ハ, ニ, ホ, ヘ, ト, イ, ロ, ハ)

Vertical dashed lines connect the notes between the two staves, showing that the same pitch is represented by different letter names and syllables in the two clefs. For example, the note on the second line of the Treble staff (G) is the same as the note on the second line of the Bass staff (F).



ト音記号は、アルファベットの「G」の形を変えたもので、
第二線の下から書き始めます。
第二線が「ト(G)」の音であることを示して、
その楽ふが表す音の高さがわかるようにしているのです。



ヘ音記号は、アルファベットの「F」の形を変えたもので、
第四線から書き始めます。
第四線が「ヘ(F)」の音であることを示しているのです。
ヘ音記号は、低い音を楽ふに表すときに用います。

小節など

楽ふは、拍子^{ひょうし}に合わせてくぎります。

くぎるときは小節ごとにじゅう線などを用います。

Examples of musical notation for different time signatures:

- 4分の4拍子のときの例 (4/4 time signature)
- 4分の3拍子のときの例 (3/4 time signature)

4. ブレス(息つき)

V は息つきを表します。

息つきは、フレーズの切れ目など、せんりつやリズム、歌詞^{かし}の流れが不自然にならないようなところでします。

5. 拍^{はく}・拍子^{ひょうし}

拍 ……音楽の流れのもととなる単位です。心ぞうの動きのように一定の間かくで流れ、その間かくの長さによって音楽の速度が決まります。

拍子 ……いくつかの拍でつくられたまとまりです。多くの音楽は、そのまとまりをくり返しながらか進みます。まとまりの中に、強めの拍や弱めの拍があり、音楽の流れをつくり出します。

〔例〕

4分の4拍子



…… 4分音ぶを1拍とする4拍子。
1小節は4分音ぶが4つ分になる。

4分の3拍子



…… 4分音ぶを1拍とする3拍子。
1小節は4分音ぶが3つ分になる。

8分の6拍子



…… 8分音ぶを1拍とする6拍子。
1小節は8分音ぶが6つ分になる。
3拍ごとに小さなまとまりとし、
ゆるやかな2拍子として
とらえることもある。

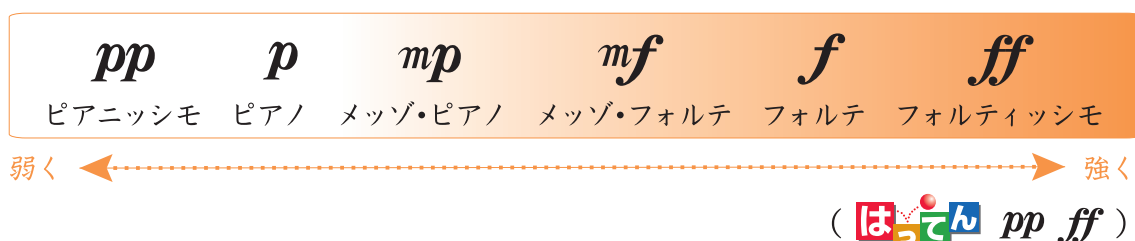
楽ふでは、拍子のまとまりごとに1小節とし、じゅう線などでくぎります。

(→ 3. ト音記号、へ音記号と五線、小節)

6. 強弱記号など

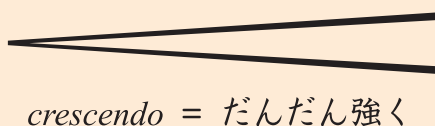
フォルテ, メッゾ・フォルテ, メッゾ・ピアノ, ピアノ

強さを楽ふ上で表すときは、「***f*** (forte フォルテ) …強く」と
「***p*** (piano ピアノ) …弱く」を基本として、
その前に「***m*** (mezzo メッゾ) …中ぐらいの」を付けたり、
fや***p***を二つ以上ならべたりして表します。



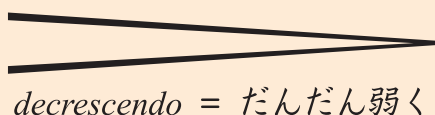
ただし、音楽表現での「強さ」は、器械で測ったりするような絶対的なものではありません。作曲した人などが「このような感じで演奏してほしい」という意図を、楽ふに記しているのです。

クレシェンド



*crescendo*はイタリア語です。
楽ふでは *cresc.*とも書きます。

デクレシェンド



diminuendo (ディミヌエンド)とも言い、
楽ふでは *decresc.*や*dim.*とも書きます。

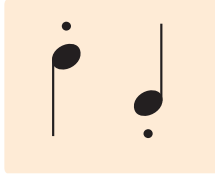
アクセント



クレシェンドやデクレシェンドのようなゆるやかな変化ではなく、記号の付いているその音だけを強めて目立たせます。

「アクセント」という言葉は、言語でよく使われます。言語には、強さだけでなく、高さや長さで表すアクセントもあります。

7. スタッカート



その音を短く切ることを表します。
音ぶで示された音の長さよりも短めに音を出し、
次の音との間に間かくをあけます。

どのくらい短くするかは、音楽のふん囲気や
イメージによって変わります。

8. タイ



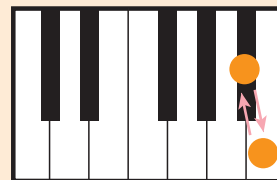
同じ高さの音ぶをタイでつなげて、
音の長さをのばすことができます。
小節のじゅう線などをこえてつなぐこともあります。

9. シャープ、フラット、ナチュラル

♯や♭などは変化記号とよばれ、音ぶの左どなりに付けて、
その音の高さの変化を表します。

- ♯ (シャープ) 半音高く
- ♭ (フラット) 半音低く
- ♮ (ナチュラル) ♯や♭で変化させた音を、
もとの高さにもどす

[例]



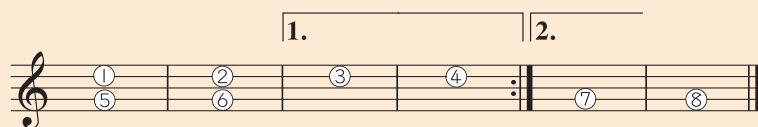
また、♯や♭が五線の左はし(ト音記号やヘ音記号の右側)に付いているときは、
その五線のだんの最初から最後まで、変化記号の付いている音を変化させます。

10. くり返し記号(リピート)と、かっこ

曲のまとまった部分をくり返すことを示す記号です。楽ふを見やすくするために考えられました。

〔例〕1回目は1番かっこへ、くり返した後の2回目は、2番かっこへ進む。

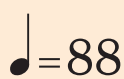
(曲の最初からくり返す場合は、最初のくり返し記号は省略する。)



11. 速度記号・速度標語

曲全体の速さを表すもの

下の速度記号は、メトロノームなどで確かめることができます。



1分間に四分音ぶを88回打つ速さで
演そうすることを示しています。

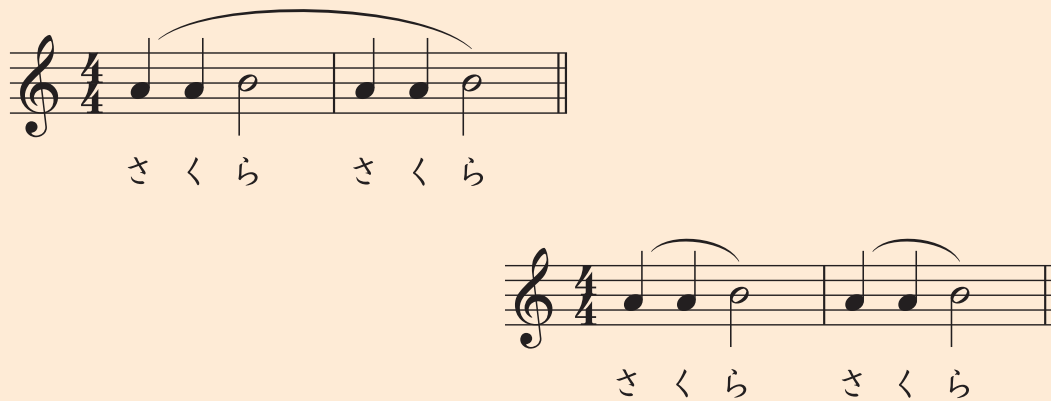
他に、「Andante (アンダンテ／ゆっくり歩くような速さで)」のように、言葉を使って表すこともあります。

曲が作られた時代によって、人々の速さの感じ方や言葉の使われ方が変わることがあります。たとえば「歩くような速さ」は、何百年も前より今の方が速くなっていると言われています。そのため、同じ言葉で速さが示されていても、曲によって演そうの速さがちがう、というようなことがあります。

12. スラー

高さのちがう二つ以上の音^ふを、切らずになめらかにつなげて演^{えん}奏^{しゆ}すること
を示す記号です。

また、フレーズ(せんりつのくぎり方)を表すこともあります。



ふく楽器の場合は、一つのフレーズの最初の音だけを
タンギングして、ひと息で演奏することもあります。